

このチェックシートは「自立のためのワーク1～16」の学習をするための導入になるよう作成したものである。

親や家族に支えられながら、日常生活をなにげなく過ごしてきた若者にとって、いざひとりで世の中に出てみると戸惑うことは多い。自分はどの程度の「自立度」を持っているのかをチェックしてみることで、今後の生活上、最低限身につけておくことよい「知識」「技術」「判断力」「実行力」は何かを知り、日頃心がけて習得していくための生活目標として活用できる。

わらい

- 社会人入門編では社会人として経済的に自立するための職業や進路を具体化させ、社会生活での人間関係や社会情報の選択、契約の基本、政治経済の動き、企業の動向など社会問題や経済生活について関心をどの程度持っているかチェックする。
- 生活編では、ひとり暮らしをする身の回りの生活について、最低限必要な知識や技能がどれくらいかチェックする。
- 家庭経済管理編では、自分の収入に見合った支出の経済的管理運営能力とカード社会における金銭管理能力がどのくらい身についているかチェックする。

使い方

- (1) ワークブックの導入として、各自で30項目を簡単にチェックし診断させる。Yesが見つからない項目について、その理由や原因を考え今後の学習や行動につなげる。
- (2) 各項目について友人やグループで話し合いながらチェックさせたり、項目内容に関する情報や知識の交換をさせる。そこから「自立したひとり暮らし」に必要な生活に関する興味関心と意欲、またその行動責任と義務について認識していくとよい。
- (3) 専門用語やわからない項目については、きちんと調べて理解しておくことが大切である。

指導上の留意点

診断は、Yesが21～30項目で「免許交付」、11～20の場合は「仮免許」、0～10の場合は「再教習」と大きな刻みになっている。各「○○○編」ごとの合計数によっても診断し、自分の弱点や傾向をつかみ、今後の生活に対処していくよう指導に配慮する。

発展

- (1) 生徒自身が考える「ひとり暮らしの自立度」としては、どのような項目内容をあげるとよいか、「社会人入門編」「生活編」「家庭経済管理編」について若者の視点からあげさせる。
- (2) 若者が「経済的に自立する」ということは、具体的にどのようなことか考え、互いに発表しあいながら箇条書きで整理させる。